

株式会社システム・ジェイディー

半導体検査技術を展開し、太陽光パネル検査市場という新たな市場に挑戦し、誰もが気付かなかった分野でオンリーワン企業を目指す大手半導体メーカーのスピナウト型ベンチャーの「株式会社システム・ジェイディー」創業者・取締役会長の伊達博氏にお話を伺いました。

半導体分野での技術を応用展開し
リードカンパニーとして
新たな市場で成長する技術ベンチャー



会社概要

入居 BI 福岡システムLSI総合開発センター

代表取締役 加島 淳司
(取締役会長 伊達 博)

所在地 本社：福岡市早良区百道浜3-8-33
福岡システムLSI総合開発センター

事業概要 太陽電池アレイテスターの製造・販売
半導体の設計・検証・テスト

URL <http://www.system-jd.co.jp/>

伊達 博 会長

- 2002年 3月 ■ 株式会社システム・ジェイディー設立
- 11月 ■ 福岡研究所開設
- 2005年 1月 ■ 福岡システムLSI 総合開発センターに入居
- 2007年 2月 ■ 資本金1億150万円に増資
- 2009年 7月 ■ 経営革新計画が承認
- 8月 ■ NEDO委託事業に採択
- 2013年 2月 ■ SOKODES事業が新連携事業計画認定
- 4月 ■ JICA研修委託事業に太陽光パネルメンテナンスで参画
- 5月 ■ 新連携事業補助金に採択(太陽光パネル障害検出)のものづくり中小企業小規模事業者試作開発に採択
- 10月 ■ 日経産業新聞(全国版)にSOKODESの記事掲載1億6,750万円に増資
- 11月 ■ 「第13回 MIT-EFJ ビジネスプランコンテスト」最優秀賞受賞
- 2014年 1月 ■ 「新エネ大賞」資源エネルギー庁長官賞受賞
- 6月 ■ 新連携事業補助金に採択(太陽光パネル障害検出)

起業、会社のおいたち

—— 起業の動機はなんでしたか？

元々、私は大手半導体メーカーの研究職一筋でいたころ、当時の通産省プロジェクトに出向し、並列計算機の開発に参画し、また、米、英、仏といった海外との共同ワークショップへの成果発表を通して、多くの研究者との交流を経験しました。その後、福岡県のシリコンシーベルト構想における研究拠点の構築に関わられた恩師の九州大学安浦教授から、福岡市が中心となり新設した半導体関係の研究所にプロパー研究員として招聘を受け、会社を退職。そこでのミッションは、地場の大手半導体関連メーカーとの産学連携の共同研究成果を企業の現場に根付かせることでした。しかしながら、その難しさを実感し、より機動的に動くために、2002年に、ベンチャー企業を起業しました。

起業当初は、専門である半導体検査技術を活かし、半導体メーカーと連携し、半導体製品の信頼性を向上させるためのテスト容易化設計のシステムを構築し特許化も行いました。半導体業界は、リーマンショック以降、メーカー淘汰の時代を迎え、当社の技術を太陽光テスター事業へ転用し事業転換を行いました。

—— なぜ、太陽光テスターに着目されたのでしょうか？

私は半導体検査がそうであったように、製品の「信頼性」を担保することが重要だと考えています。当時メンテナンスフリーといわれた太陽光システムも工業製品である以上、メンテ

製品紹介

太陽電池アレイテスター 「S KODES(ソコデス)」

太陽光パネルが正常に稼働しているかを検査する上で、既存のテスターでは不可能だった障害位置を検出することができる業界初の画期的な製品。太陽光パネルを個別にチェックする必要はなく接続箱からの検査で短時間に検査できるため、屋根上等の高所に上らず安全で、天候にも左右されないことが特徴。持ち運びができる携帯型と遠隔監視などができる組込型の2タイプの製品がある。



ナンスは必要ではないかという違和感を抱いていました。その後、容易に障害箇所を検知できるテスターを求め、ニーズの声があがってきました。ソーラーシステムは岩場や高所など検査現場としては過酷な環境に設置するケースも多く、いかにしてメンテナンス作業を効率化するかが課題となっていました。(公財)福岡県産業・科学技術振興財団や科学技術振興機構の事業を活用し、またNEDOの「新エネルギーベンチャー技術革新事業(太陽光発電)」に採択されたのを機に、三年半の研究開発を重ね、2013年に太陽光テスターとして製品化しました。

事業の展開と現在

— 現在、提供している「SOKODES」は、どのように市場を獲得していくのでしょうか？

太陽光発電パネル検査装置「SOKODES」は、故障の有無を確認するだけでなく、直列接続された複数のパネルのどのパネルが故障しているのかを検知できます。従来は、パネル一つ一つを、目視や計測器を用いて確認していたものを、地上の接続箱に接続し、そこから取得したデータを解析することで故障の場所を特定する世界初的方式を実装することに成功しました。その結果、悪天候や夜間の検査を可能にしました。

太陽光パネルの設置市場は近い将来ピークを迎えるとされていますが、メンテナンス市場は継続して拡大するマーケットであると考えられます。当社は、太陽光発電事業会社および設置施工会社を販売ターゲットとしており、これまで



センター屋上に設置したテスト用の太陽光パネル

に全国で、約300台の携帯型「SOKODES」を販売しました。また、組込型「SOKODES」遠隔監視システムは、協業会社とのアライアンスにより、メガソーラーを中心に導入拡大しています。現在、太陽光発電システムの品質を維持・向上させるための地絡計測器など、新しいテスターの開発を進めています。

— 会社を成長させるために

工夫されたことは何でしょうか？

当社は社員5名と限られた資源のベンチャー企業です。銀行融資、VC、株主等への渉外は私が担当しますが、公的機関の助成金や制度をフル活用させてもらっています。また、当社の要である技術力については、私だけでなく大手電機メーカーで製品設計の経験がある技術者を積極的に採用する等して強化しています。販売に関しては大手商社を含め全国20の販売代理店を通して提供することで、当社の社員を開発主体に動けるようにしています。

そして、これから

— 海外への展開も検討されているのでしょうか？

携帯型「SOKODES」を、ASEAN、ヨーロッパ、オーストラリアを始めとし、アメリカ、中国、インドへ、ここ1、2年で展開したいと考えています。また、組込型「SOKODES」遠隔監視は、ビッグデータとも連動するビジネス展開が可能です。この部分については、既に大手システムメーカーとの協業により事業展開することになっています。少人数のベンチャーが海外取引を行うために、国内大手と協業し、海外展開のための人的資源をなるべく割かないことで、技術サポートに注力できる体制が維持できると考えています。

インキュベーションの利用

◆ 入居のきっかけ

シリコンベルト構想の中でシステムLSIの拠点施設として福岡システムLSI総合開発センターが開設したことをきっかけに入居した。入居当初は半導体関連事業が中心のため、施設内で設計テストができる検証ラボがあったことも魅力であった。

◆ 入居しての変化

当初は半導体をターゲットにした事業だったが、市場の動向を鑑みて太陽光パネルの検査市場に事業転換。検査システム「SOKODES」の製品化・市場展開を開始し、社として第2のフェーズに入っている。

◆ 入居してよかったこと、将来の入居者へのメッセージ

熱意ある起業家が集まるところには、イノベーションが起こる可能性が高いと感じている。入居企業同士の交流会などを通して、今、時代の中で起こっている社会的課題(問題)を共有し、個々のアイデアでソリューションを提供していくことができる環境は、イノベーション創出に最適だと感じる。

from IM

福岡システムLSI総合開発センター
IM 田中 秀一郎



同社は半導体検査技術で培った高い技術力を活用し、新市場に転換したところが素晴らしいと思います。ベンチャー企業の限られた資源を理解し、大企業と連携しながら資源の選択と集中を行い、着実に事業を展開しています。今後も同社の更なる発展に向けて、海外展開、新事業創出、資金需要などのニーズに対応した支援をしていきたいと考えています。

福岡システムLSI総合開発センター

当施設は、中小機構が九州大学連携型起業家育成施設として整備し、(公財)福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)が管理運営する施設です。当施設には中小機構のIMが常駐しており、事業計画の作成、販路開拓、



BI 紹介

資金調達等の様々な課題の解決に向けた支援をしています。また、ふくおかISTが福岡県の施策による支援を行っています。

〒814-0001
福岡県福岡市早良区百道浜3-8-33
Tel.092-832-7151 Fax.092-832-7152